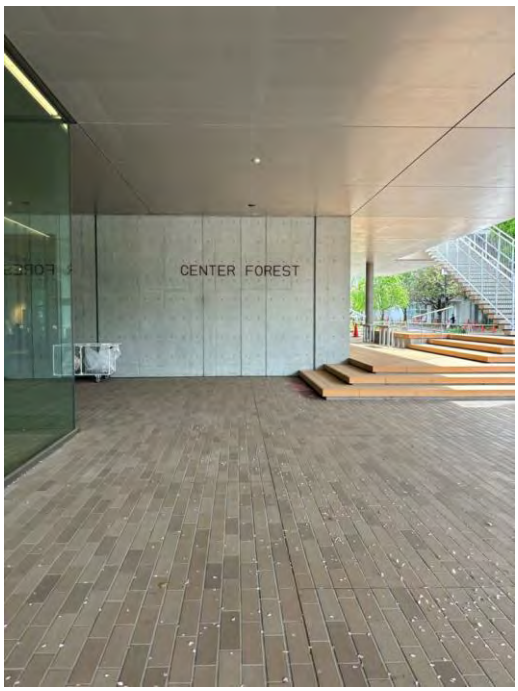
多摩支部会報第 70 号

MEIJI UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION

2025 年 8 月 1 日発行

「生田・センターフォレスト」オープン

2025 年 4 月 1 日、生田キャンパスに「センターフォレスト」という新たな校舎がオープンしました。生田キャンパスの教室機能と図書館機能、ラーニングコモンズ（総合的な自主学修のための環境）機能の３つを複合した共用教育棟。建物全体が学修拠点・ラーニングコモンズとして整備されています。
また、建設地のヒマラヤスギ林の風景を未来へ継承するため、コンクリート柱や壁に「杉板型枠コンクリート打放」仕上げを採用し、杉の表現をコンクリートに転写します。また、１階寄付者寄付芳名板やメモリアルコーナーのテーブル・椅子に、ヒマラヤスギを活用しています。



資料：明治大学 HP（1 頁～4 頁）

CENTER　FOREST　*CONCEPT*

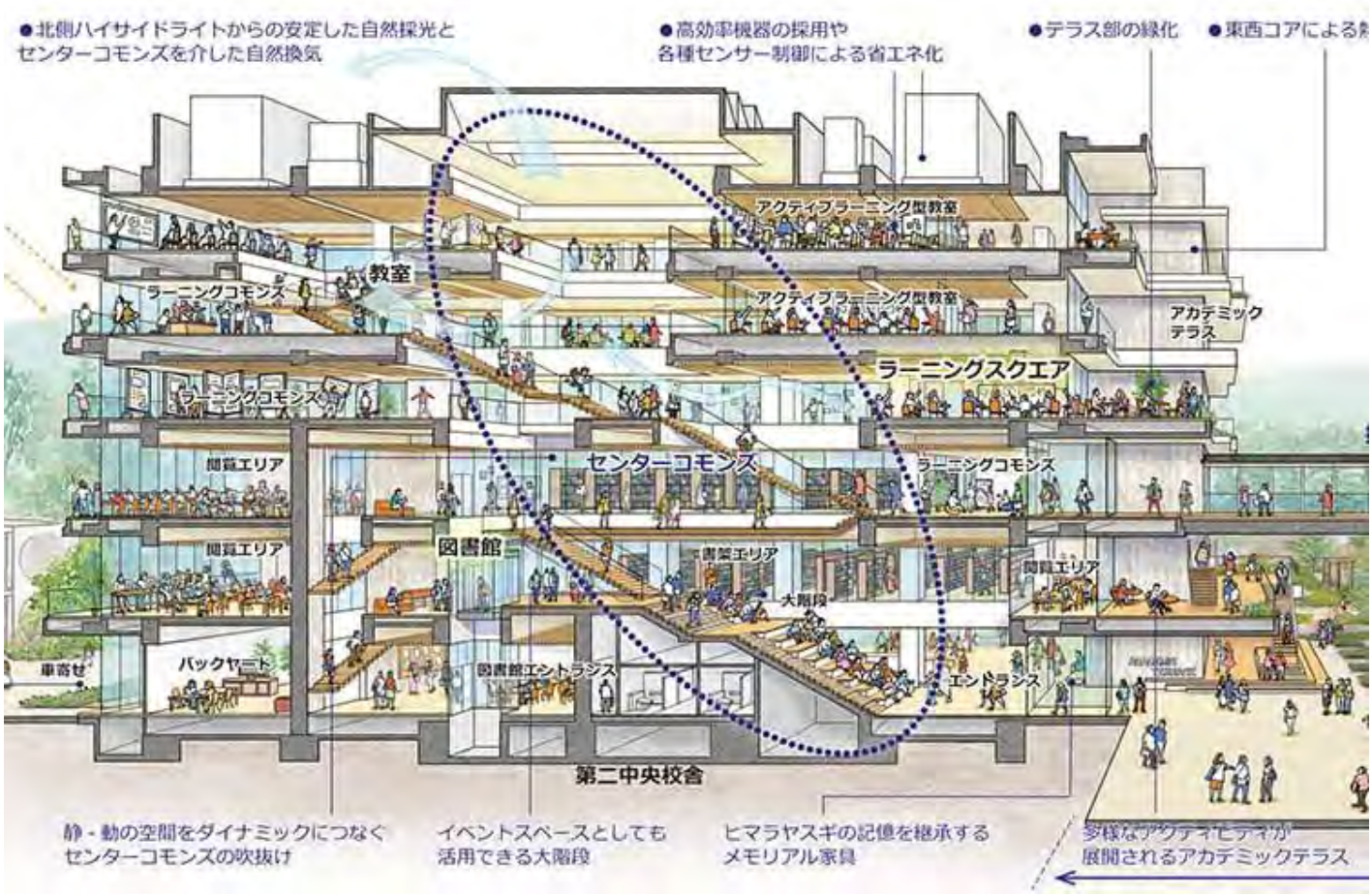
生田キャンパスの新たなシンボルとなる建物は、アカデミック・モールとキャンバス・モールが交差するキャンバスの中心に位置し、どこからでもアクセスしやすい「キャンバスハブ」として機能します。
学生が最初に立ち寄る学修拠点として、教室・ラーニングコモンズ・図書館が一体化し、吹き抜け空間「センターコモンズ」を通じて結びつくことで、偶発的な出会いや自主的な学びを促進。さらに、かってのヒマラヤスギの風景を未来へ継承し、「多様性×森」をコンセプトに、多様な学生が集い、学び、創造し、発信する共創の場を実現します。

FEATURE　センターフォレスト３つの特徴

センターフォレストは、生田キャンパスの「教室機能」と「図書館機能」、そして、「ラーニングコモンズ（総合的な自主学修のための環境）機能」の３つを複合した共用教育棟。建物全体が学修拠点・ラーニングコモンズとして整備されている。

01　学びの拠点・キャンバスハブの実現

センターフォレストは、キャンパス全体からアクセスしやすい学修拠点として整備されています。建物内のラーニングコモンズは、学生が最初に立ち寄るホームベースとして、多様な学びに対応する空間となります。



02　学びの空間をつなぐセンターコモンズ

図書館、ラーニングコモンズ、教室の各用途を繋ぐ「センターコモンズ」を創ります。
1 階から 3 階の図書館、4 階から 6 階に教室を配置し、センターコモンズでそれらを繋げることでセンターコモンズを通じ、見る・見られるの関係が生まれ、偶然的な出会いや自主的な学びを誘発します。

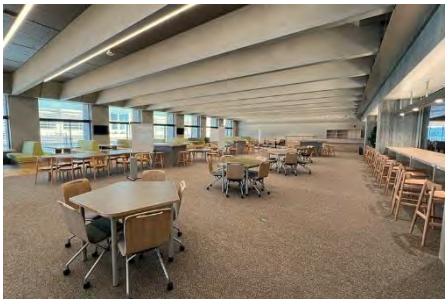
FLOOR　GUIDE　センターコモンズから広がる学修空間

施設全体を通じて、学生が自由に集い、学び合い、新たな発見を提供する。
理工学部・農学部の交流拠点として創造的なアイデアを育み、自然と調和した持続可能な設計を採用している。

図書館エリア	教室エリア

1 階

ライブラリーエントランス



4 階　学修空間ラーニングコモンズ

2 階

センターコモンズ脇ブース席

5 階　大教室

3 階

3 階ゲート

6 階　ラーニングテラス

それぞれの“個”が、遠い記憶と共に静かに呼吸する。
環境と学びが交差する。

センターコモンズ

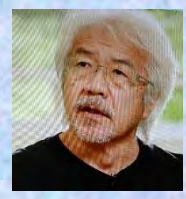
03 未来へ継承―ヒマラヤスギ林の風景

建設地のヒマラヤスギ林の風景を未来に継承するため、コンクリート柱や壁に「杉板型枠コンクリート打放」仕上げを採用し、杉の表情をコンクリートに転写します。また、１階寄付者寄付芳名板やメモリアルコーナーのテーブル・椅子にヒマラヤスギを活用します。

動画「つむぐとき」～ヒマラヤスギが伝える歴史～」の対談から抜粋

対談者：山田朗明治大学平和教育登戸研究所資料館館長（文学部教授）、

菅啓次郎（理工学部教授、詩人）



菅教授：植物というものは、不思議なもので、生物の進化のある段階で、生物は、動物として動きまわって自分の栄養を探す者たちと、その場所に定着してそこで生きていく事を決意した者に分かれたと思うんですよ。そして、その場所に定着していくことを選んだのが、植物であって、でも植物というものも実は、非常に長い年月をかけて少しずつ動いている。特にその種子をばらまき、その種子というものがそれぞれの場所で育っていくわけですから。緩慢な動きはあるけれども、その動きすべてを見て、記憶している。ただ、その記憶のあり方が動物の我々とは違うかもしれない。そんなことを時々考えるんですけども、はたしてこのヒマラヤスギたちは何を覚えていたんでしょうかね？

山田教授：まず、私たちは何ていうんでしょうか、ヒマラヤスギの姿そのものから歴史を想起するっていうことを、これからは映像によってということになりますけれども、それがひとつできるということ、それから、もうひとつは、ヒマラヤスギを素材にして、色々な物を作ろうと思っています。それによって、ここには、こういうヒマラヤスギがあったんだということを、また語り継いでいけるということ、それから、植物ですから、また新しい苗を植えて、次の世代のヒマラヤスギを私たちは作っていこうと。ですから色々なかたちで現物が残せないという制約があるなかで、しかし、いかにそれを活かしていくかということをやっぱり、これからも新しいヒマラヤスギを育てながら考えていけるんじゃないかというふうに思います。

管教授：そうですね、たとえその場所になくなったとしても、その生命はこれからも続いていくし、その生命が我々に教えてくれることも、これから新たに展開していく。

「生田キャンパス　センターフォレスト」見学会のご案内

多摩支部会報第 70 号でご紹介いたしました「生田キャンパス　センターフォレスト」の見学を行い、学食での昼食をとります。
参加者の募集を行っております。是非ご参加いただくようお願い申し上げます。

① **見学日：2025 年 10 月 8 日（水）　10 時～**
② **申し込み先：多摩支部幹事長　江面利和まで、下記メールで、ご連絡ください。**
〈ezura@shikon.meiji.ac.jp〉
③ **申し込み期限：8 月 30 日（土）**

【訃報】

元多摩支部支部長　西山　強氏は　去る 6 月 30 日（月）享年 87 歳にてご逝去いたしました

多摩支部設立後の黎明期において　第二代幹事長ならびに第三代支部長として　21 地域支部を包括する日本一の規模を誇る支部の発展と継承に大きく寄与されました

ここに生前のご厚誼を深く感謝しご冥福をお祈りするとともに　謹んでお知らせいたします

なお　通夜　告別式は　近親者のみで執り行いました

発刊 70 号を迎える　多摩支部会報

多摩支部会報は、平成 21 年〈2009 年〉7 月 4 日、創刊号が発行されました。
その多摩支部は、2004 年 4 月設立、第 1 回総会は同年 6 月に開催されました。当初、地域支部の数は 10，会報創刊時の 2009 年には、13 地域支部になり、現在では、全国最多の 21 地域支部で構成されるにいたっております。
そうした中、多摩支部会報も創刊から 17 年、この度、70 号を発刊することが出来ました。
母校明治大学は、2031 年に創立 150 周年を迎える事になります。
創立 150 周年に向け、校友会には、積極的な母校支援活動や会員相互の連携強化への取り組みが求められております。
多摩支部においても、土屋多摩支部長の提唱する「明治はひとつ、3C で繋ごう多摩支部の絆」をスローガンに、21 地域支部が一丸となって「力強く、前へ！」様々な活動を推進しております。
多摩支部会報も微力ながら、地域支部のみならず、多摩支部会員の一人一人の絆を深めるべく、今後とも努めてまいる所存です。
毎号毎号が、新たなスタートという気持ちで発行していきますので、多摩支部の皆様のご協力を引き続きお願い申し上げる次第です。

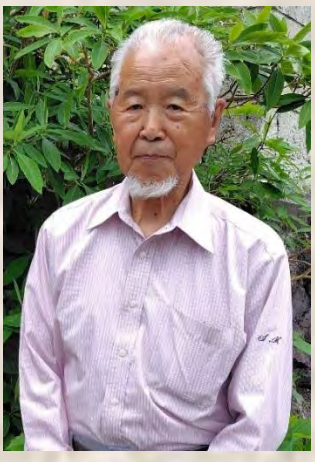
多摩支部広報委員会　　佐々木一郎　柴田健彦

素晴らしきかな人生　It's a Wonderful Life

～多摩支部の皆様のご寄稿から

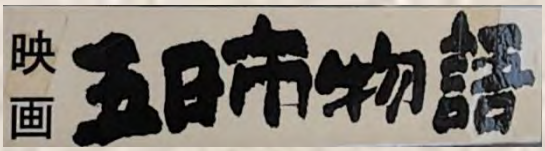
軍道地域に残る「軍道紙」の歴史を後世に伝える。

栗原　晋二（あきる野地域支部　昭 36・商）



私は、東京都西多摩郡小宮村乙津字軍道の寒村に昭和 9 年 12 月 9 日に生まれました。軍道は、JR 五日市線の終点（武蔵五日市駅）から西東京バスの養沢線で「軍道」のバス停で下車します。
利用客は、地元の人たちと高明山、馬頭刈山、御岳山に連なる山登りの初歩からベテランの拠点、登山・下山の利用者と思います。
「軍道紙」について思いつくまま、手元の資料等を調べながら記してみます。

「軍道紙」は、あきる野市（旧五日市町）の乙津、養沢、戸倉地区などに伝わる伝統の和紙で、「軍道」の名称は、乙津地区の集落名に由来します。
洋紙の普及に伴って生産者が減少し、昭和 40 年代前半に、生産が途絶え、1987 年（昭和 62 年）に、五日市町（現あきる野市）が伝承保存を目的として「ふるさと工房」を建設し、復活しました。



公開：2011 年 11 月 12 日、出演：遠藤久美子、山崎佳之、田中健、他

～それは時が止まったような東京の不思議なまち～

映画のセリフとその時の写真です。

○シーン：あきる野市ふるさと工房・作業所

五日市に古くから伝わる和紙「軍道紙」の紙すきを行っている「栗原晋二」〈70 歳〉、友里、メモを取りながら、

友里：「あの、お名前教えてもらっていいですか？」
晋二：「栗原晋二」
友里：「栗原晋二さん」

友里、メモをとる手が止まって。

友里：「あれ、栗原って、栗ちゃんのお父さん？」
栗原：「違いますよ、このあたりはみんな栗原なんです」
友里：「あ、そうなんだ。犬も歩けば栗原にあたるってか」
栗原：「伊藤さん！」
友里：「失敬」
友里：「このモワモワしているのは何ですか。」
晋二：「楮」
友里：「こうぞ？どんな字ですか？」
晋二：「きへんに、ものちょん」
友里：「きへんに、ものちょん？」

栗原に、「判る？」という視線を送る友里。

栗原：「え・・・・えーつと」

ちょっとうろたえている栗原。

友里：「なんだ知らないんだ」

いたずらっぽい笑顔を栗原に送る。

栗原、周りを見渡す。壁に紙すきの方法が書かれているパネルを見つける。そこに、「楮」の文字がある。

栗原：「（パネルを指さし）あそこ」

パネルを目で追う友里。

友里：「ほんとだ、きへんにものちょんだ」

笑い転げる友里。

「軍道紙」について、俳句でご案内します。

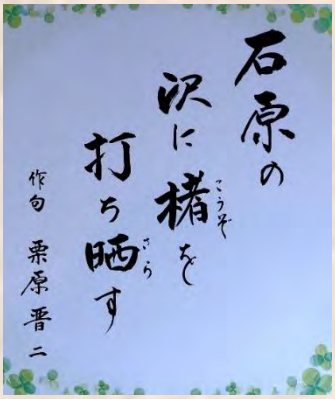
冬仕事　和紙漉く里は　夢のなか

軍道紙の用途は、障子紙、お茶作りの焙炉の用紙、大福帳（通い帳）、色紙、証書等と多種類に商品化されていました。
軍道紙作りは、冬の間、野良仕事や山仕事が少なくなり、現金収入の手間仕事でした。（私の生家も冬の期間は、軍道紙を作っていました。）
私は、軍道地域に残る「軍道紙」の歴史を後世に伝える手段として、俳句の活用を考えています。

全国農業新聞・俳壇へ「軍道紙」を読んでの入選句です。2020 年（令和 2 年）の冬から夏に詠んだなかの一句でした。

石原の　沢に椿を　打ち晒す

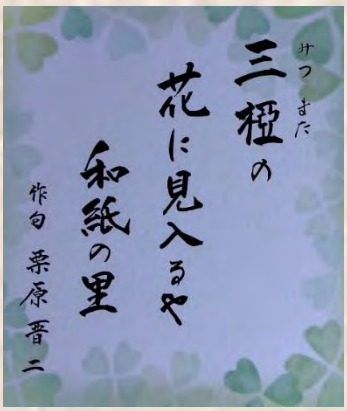
軍道紙の生産が盛んな頃は、「石原沢」・「ひかけ沢」には。豊富な沢水が流れていました。
石原沢には、民家が何軒かあり、最後まであった家の前が高明山に続く山林の登山道になっています。
山裾を開墾した急坂な畑にも椿を育成していました。
真冬、寒中の沢水は、身を切るような冷たさで、椿が腐らない最大の自然要件を保持していました。
また、石原沢には、大きな脱穀用の水車もありました



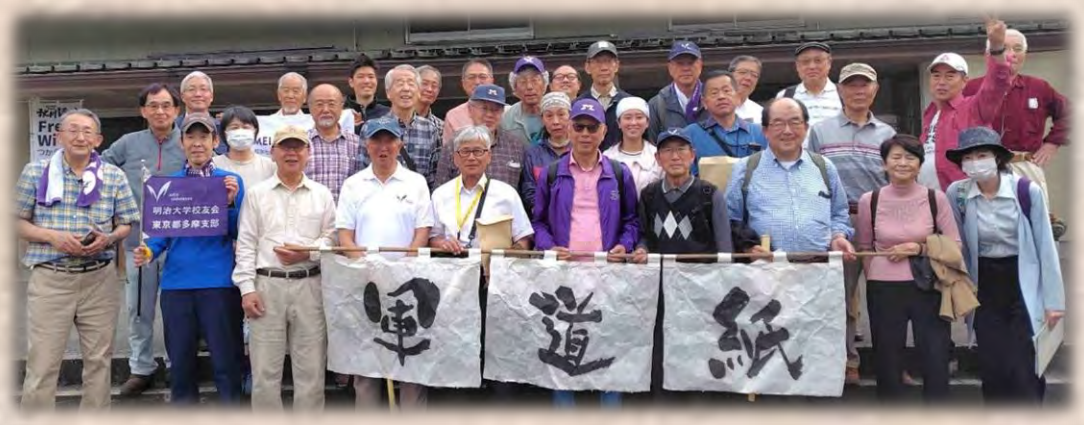
三椏の　花に見入るや　和紙の里

三椏の花

三椏は、早春に黄色の人目を引く美しい花を咲かせます。
「軍道紙」には、楮だけと言い伝えられています。
しかし、三椏を入れると白く出来上がると言われ、注文もあったのでしょうね。
早春の三椏の花は、「和紙つくりの地域」を教えてくれるから、軍道地区には、あちこちにみられるのでしょう。



最後に、〈五・七・五〉の中に、季語を入れ、思いのままを表現できるよう努力しながら、山里の四季の変化を楽しみたいと思います。
（令和 7 年 6 月　栗原　晋二　）



多摩支部企画活動
「21 地域支部を知ろう」
（2025・4・20）

Photo Gallery　四季の花だより－1－

町田地域支部　永田二夫（昭 38・工）

咲き乱れる「花ショウブ」（2025 年 6 月）

撮影地：町田薬師池公園

地域と歩む「地域支部」

環境問題への取り組み

野川環境フィールドワーク（小金井市主催）への参加　小金井地域支部

野川とは、国分寺市から流れ出し、武蔵野台地の南端を流れ
世田谷区で多摩川に注ぐ全長約 20 ㎞の川

去る６月７日（土）、小金井地域支部で地域貢献活動の一環として昨年から取り組んでいる、小金井市主催の「野川環境フィールドワーク」に今年も参加しました。
参加者は、昨年の５名を上回り、初参加３名を含む７名で参加しました。晴天で汗ばむ天候の中、各自紫紺のＴシャツや帽子、タオルなどの明大グッズを身にまとい「紫紺軍団」「明大校友会」の存在を大いにアピールしました。
当日は、午前９時４５分に野川クリーンセンターに集合。市の職員の方から説明を受けたあと、軍手とゴミ袋を手に、緑豊かな野川沿いを片道約２ｋｍ、往復約４ｋｍを２時間かけて、ゴミの収集、外来種の雑草の駆除に励みました。
地域にお住いの親子連れの参加も多く、にぎやかで和やかな雰囲気の中で作業が進みました。
ペットボトルやお菓子の空箱、中には野球ボールや犬のリードといった意外な収穫？もありました。
午前 12 時前、再び野川クリーンセンターに戻り、回収したゴミを市の職員の方の指示で分別して捨て、そのあと参加賞として、非常食のビスケットやヒジキご飯、白粥をいただき、達成感、満足感とともに持ち帰りました。
また、偶然お子様が明大卒で、ご本人も明大父母会で活動しているという市の職員の方とも顔見知りになり「来年もよろしくお願いいたします。」と声を掛けられ、活動の輪が少しずつ広がっていることを実感できました。来年以降もより多くの校友の方に参加いただき、親睦を深めながら地域に貢献していきたいと思います。

（記：小金井地域支部　内川　晃一　昭 57・経営）

地域と歩む「地域支部」

環境問題への取り組み

「東久留米市環境フェスティバル」への参加

東久留米地域支部

昨年 2024 年度から参加した「東久留米市環境フェスティバル」ですが、実行委員会でのボランティア活動と明治大学校友会の PR を兼ねて参加をしました。
本年は実行委員会へ 2 名で参加し、昨年 11 月から活動となりました。
企画として「環境落語」を提案しました。校友でもあり地域支部役員でもある吉盛正之（立川志獅丸師匠）さんに出演交渉をして快諾を得ました。当日の運営も呼び込みの物江さん、司会と開催アナンスを當麻さん、会場係の柴田さん、峯岸さん、川上さんの協力のもと満席となりました。
6 月 7 日・8 日の 2 日間で天候にも恵まれ約 2400 名の参加がありました。
40 以上の団体・企業で盛り上げ、地元アーティストの大小島真木さんの環境アート展示と講演、トムソーヤの川下り、環境ポスター・環境川柳の掲示、手作り体験ひろば、リユース・リサイクルコーナー、ごみ環境問題、ブルーベリーとオリーブの苗配布など幅広い環境に関する話題を取り上げて市民の参加を呼び掛けました。

（記：東久留米地域支部長　伊藤　謙一　昭 46・経営）

地域と歩む「地域支部」

環境問題への取り組み

「ふっさ環境フェスティバル」への参加

福生地域支部

令和７年６月８日(日)１０時～１５時に多摩川中央公園元気広場にて「第２３回ふっさ環境フェスティバル」が開催され、福生地域支部としては連続５回目の出展を行いました。

「ふっさ環境フェスティバル」は、環境月間である６月の１ヶ月間を通して、身近な環境について楽しく学び、体験できるイベントで、普段から環境に配慮して活動している市内の４０以上の団体が出展して開催されました。福生地域支部としては、「多摩の持続可能な森林、水、生物の育成の見守り」「幅広い世代の方々と及び学生の皆さんと、気候変動の現状を共有して学習」することをテーマとしてパネル展示や明治大学落語研究会の協力を頂き、「環境落語」の出展を行いました。具体的には、テントブースの中で「花粉の少ない森づくり運動」推進のための「募金活動」や子供たちを対象とした多摩産材で作った「木の卵の絵付け」「コースターアート」「ぶんぶんゴマづくり」「箸づくり」「積み木遊び」を行い、多くの見学者の皆様に参加頂き、子供たちの歓声に包まれて盛況に終えることが出来ました。５年連続の出展となる環境落語に於いては、環境問題を取り込んだ演題も年々改善され、今年も学生落語家２名に出演頂き、古典落語に環境を織り込んだ落語二席を実演して頂き、観客から大きな声援を受けることが出来ました。

開催日の天候は、昨年と違い概ね良い状況で推移しましたが気温が高く、子供たちへの「熱中症」への配慮を行いつつの展示ブースの運営でしたが、「花粉の少ない森づくり」には多くの共感が得られましたので、次回以降も趣向を変えながら取組みを継続してきたいと思います。

（記：福生地域支部　大河内公夫　昭54・工）

第61回明治大学全国校友

福井大会

2025 9.27(土)・28(日)

27(土)

■福井県繊協ビル 10F ホールAB
15:00-16:30　支部長・幹事長・地域支部長・本部員懇談会

■ザ・グランユアーズフクイ 3F 天山(ホテルフジタ福井内)
17:30-19:30　支部長・幹事長・地域支部長・本部員前夜祭

前夜祭参加費▶校友・同伴者 14,000 円

28(日)

■フェニックス・プラザ
13:30-14:45　記念式典(1F エルピス大ホール)
15:00-16:00　記念講演会(2F 小ホール)
16:40-18:50　懇親会(1F エルピス大ホール)

大会参加費▶校友・同伴者 15,000 円

※昨今の物価高騰により校友・同伴者とも同額に設定させていただきますので、ご理解の程お願い申し上げます。

主催／明治大学全国校友福井大会実行委員会

大会についての問い合わせ先
第61回明治大学全国校友福井大会 運営事務局 株式会社ライトスタッフ
〒910-0024 福井県福井市照手3-8-15
TEL:0776-25-5060(受付時間：平日10時～18時(土・日・祝祭日は休業))
MAIL:meiji@right-stuff.biz

参加登録・宿泊・エクスカーションについての問い合わせ先
㈱JTBビジネストランスフォーム「第61回明治大学全国校友福井大会」係
〒450-0003　愛知県名古屋市中村区名駅1-16-30　東海ビルディング5階
TEL:052-446-5099(受付時間：平日10時～17時(土・日・祝祭日は休業))
MAIL:61meiji@jbx.jtb.jp

MEIJI UNIVERSITY

MEIDAIGOODS
明治大学オフィシャルグッズ
INFORMATION

多摩支部の皆様のご来店をお待ちしております

お土産に明大グッズはいかがですか？

明治大学オフィシャルグッズショップ

MEIJIRO SHOP

MEIJI UNIVERSITY

明治大学駿河台キャンパス
グローバルフロント１階

PICK UP!

世界のLUPICIAと明大グッズの
共同開発のオリジナルフレーバー！

Meiji tea（LUPICIA）
クラシックティー／フレーバードティー
ティーバッグ８個入り
2缶セット
~~¥2,500~~ → ¥2,000

LUPICIA

NEW
やなか珈琲店とコラボによる
本格的なドリップコーヒーです

明大やなかコーヒー
（ドリップバッグ）
5包セット ¥1,200　1包 ¥250

NEW
紙面に記念館がデザインされた
越前和紙の一筆箋です

MEIJI UNIVERSITY
一筆箋【越前和紙】
¥750

クッションのような手触りな手乗り
めいじろう！人気商品です

めいじろう
マスコットキーホルダー
¥750

＼ネットショップからもご購入できます／
明大グッズオンラインショップ
https://meidaigoods.net/　明大グッズ

MAP

どなたでもご利用頂けますのでぜひお立ち寄りください

［アクセス］
JR「御茶ノ水駅」より徒歩５分
地下鉄「神保町駅」より徒歩８分

〒101-0062
東京都千代田区神田駿河台２丁目１明治大学グローバルフロント１F

［営業時間］
OPEN 10:00-17:00 通常平日
10:00-16:00 通常土曜
CLOSE 日曜・祝日

［お問い合わせ］
03-6281-3131
meijiroshop
@meidai-support.com